

年度またぎ売上の 仕訳パターンガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

年度またぎ売上の仕訳パターンガイド

年度またぎ売上の基本原則と仕訳の流れ

売上計上の重要ルール

代金の受取日ではなく「商品・サービスの提供日」を基準に売上を計上します。年度をまたぐ場合は、当期は一旦「負債」として処理する必要があります。

共通の処理ステップ

1. 入金時（当期）：現金を「前受金（負債）」に計上
2. 提供時（次期）：前受金を「売上（収益）」に振り替え

【基本科目の使い分け】

項目	内容	具体例
前受金	単発の取引における前払い	商品代金の内金、予約金
前受収益	継続的な契約に基づく未提供分	家賃、保険料、リース料

年度またぎ売上の仕訳パターンガイド

年度またぎ売上の仕訳パターン（全額・一部受領）

パターン1：代金の全額を当期に前受けし、年度をまたぐ場合

時期	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
当期（入金時）	現金	100,000	前受金	100,000	全額前受け
次期（提供時）	前受金	100,000	売上高	100,000	商品提供・売上振替

パターン2：代金の一部を当期に前受けし、年度をまたぐ場合

時期	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
当期（入金時）	現金	60,000	前受金	60,000	内金の受領
次期（提供時）	前受金	60,000	売上高	100,000	商品提供（総額10万）
次期（提供時）	売掛金	40,000	-	-	残金4万円の認識

年度またぎ売上の仕訳パターンガイド

年度またぎ売上の仕訳パターン（追加修正・継続取引）

パターン3：次期の提供時に追加が発生し、年度またぎ売上に修正する場合

時期	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
当期（入金時）	現金	100,000	前受金	100,000	当初額の受領
次期（提供時）	前受金	100,000	売上高	130,000	追加分を含む売上計上
次期（提供時）	現金	30,000	-	-	追加費用の受領

パターン4：継続的な取引で年度またぎ売上が発生する場合

時期	借方科目	金額	貸方科目	金額	摘要
当期（入金時）	現金	120,000	前受収益	120,000	1年分の保険料受領等
当期（決算時）	前受収益	100,000	売上高	100,000	当期分を売上に振替
次期（決算時）	前受収益	20,000	売上高	20,000	未経過分を翌期の決算で売上に振替

年度またぎ売上の仕訳パターンガイド

年度またぎ売上の実務チェックリスト

パターン別・確認ポイント

- ・**提供日の特定**：納品書や検収書の日付が「決算日」を過ぎていないか？
- ・**未振替の防止**：前期に計上した「前受金」が、今期の売上に正しく振り替わっているか？
- ・**科目の整合性**：スポット取引なら「前受金」、サブスクリプション型なら「前受収益」になっているか？

まとめ

入金ベースではなく「**義務を果たした日（提供日）**」を軸に仕訳パターンを選択することで、適正な期間損益計算が可能になります。なお、実務上は「売掛金 / 売上高」による年度またぎのパターンも想定されるため、取引実態に合わせた柔軟な科目選択が重要です。